

学ぶことを楽しみ、自ら学ぶ子ども
の育成

- Society5.0、グローバル化の進展など急激に変化する予測困難な社会において、子どもたちがそれぞれに思い描く幸せを実現し明るい未来を創り出すためには、自分自身や他者、社会の豊かさのために自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、判断して行動できる資質・能力を身に付ける必要がある。
- 学習指導要領では、それらの子どもに必要な資質・能力を「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力・人間性等」と示しており、本市では、これら3つの資質・能力を学校教育だけではなく家庭や地域においても育む「総合的な学力」として位置づけ、育成に取り組んでいる。

総合的な学力

総合的な学力

本市では、学習指導要領で示された、実際の社会や生活で生きて働く「**知識・技能**」、未知の状況にも対応できる力としての「**思考力・判断力・表現力等**」、学んだことを人生や社会に生かそうとする「**学びに向かう力・人間性等**」の3つの資質・能力を子ども自身が多様な他者とつながりながら学校教育の各教科等で育み、家庭教育や社会教育の場において様々な主体と協働・連携しながら実社会と結び付けて発揮するものとしている。

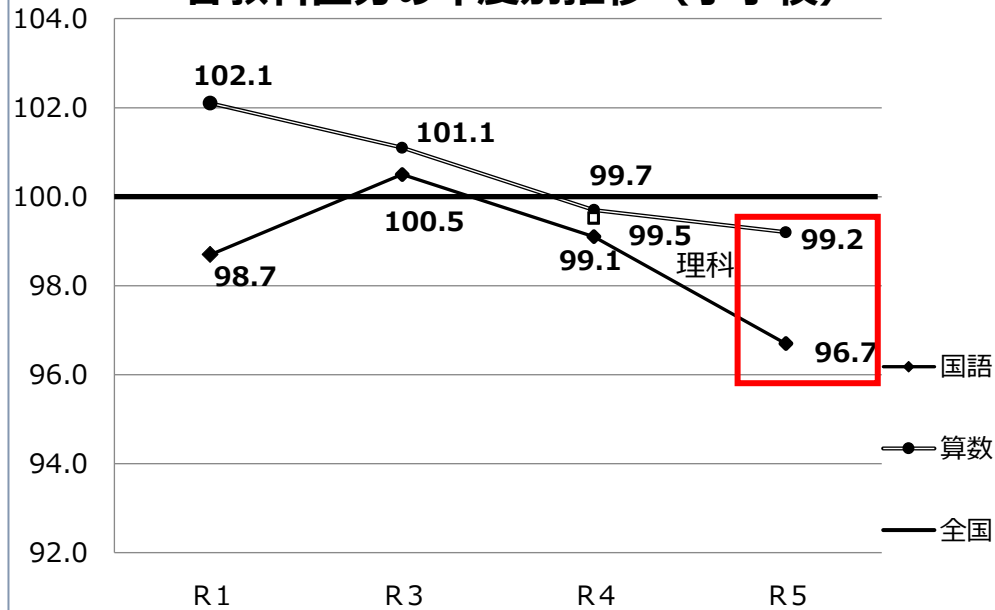
総合的な学力を身につけるための子どもの姿

学ぶことを楽しみ、自ら学ぶ子ども

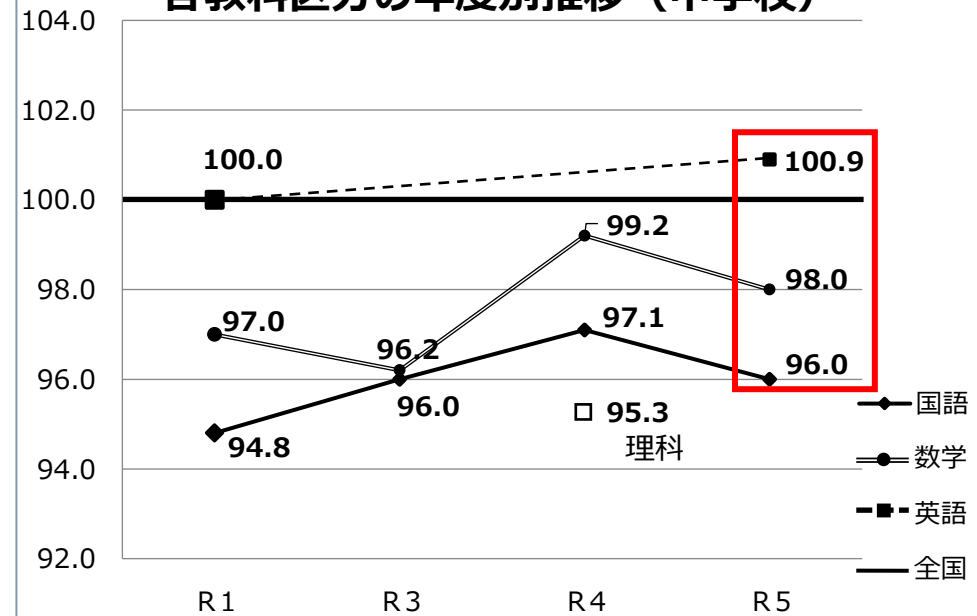
- ・子ども自身が主体的に課題を見つけ、**何を学ぶのか（学びの内容）**や、**どのように学ぶのか（学びの方法）**を選択することができる。
- ・子ども自身が、**何を学んで（学びの内容）**、**何ができるようになったのか（自分の成長）**を実感し表現することができる。

各教科の経年比較推移 (全国学力・学習状況調査)

各教科区分の年度別推移（小学校）



各教科区分の年度別推移（中学校）

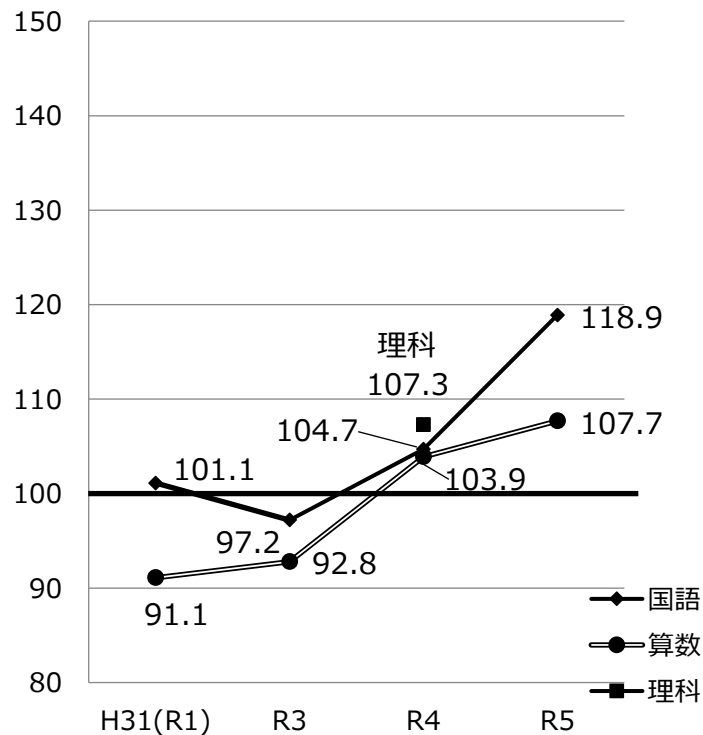


※全国の児童生徒の平均正答率を基準（100）とした場合

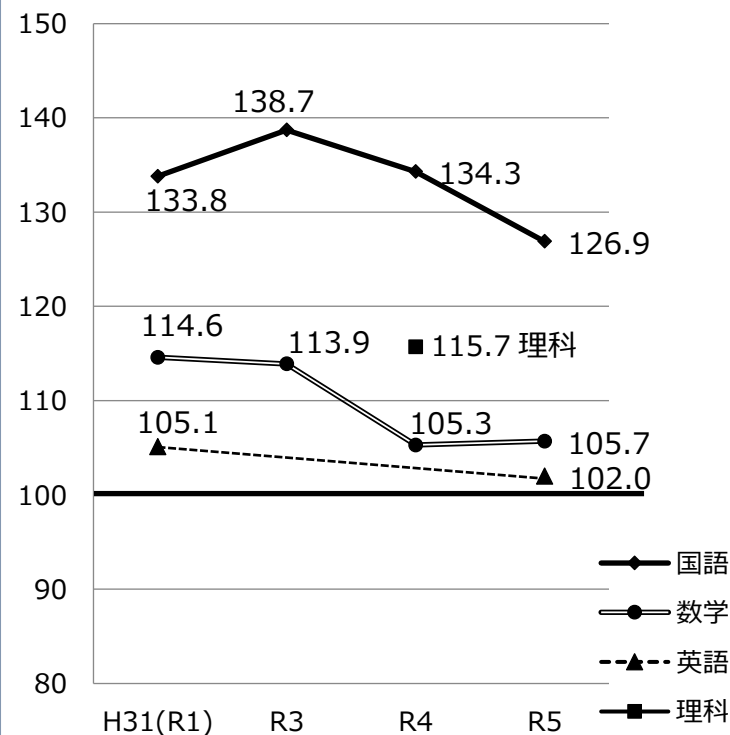
令和5年度は小中学校ともに、国語・算数・数学の教科で全国平均を下回った
中学校においては、英語が全国平均を上回った

学力低位層（正答率40%未満の児童生徒）の割合 （全国学力・学習状況調査）

各教科区分の年度別推移（小学校）



各教科区分の年度別推移（中学校）

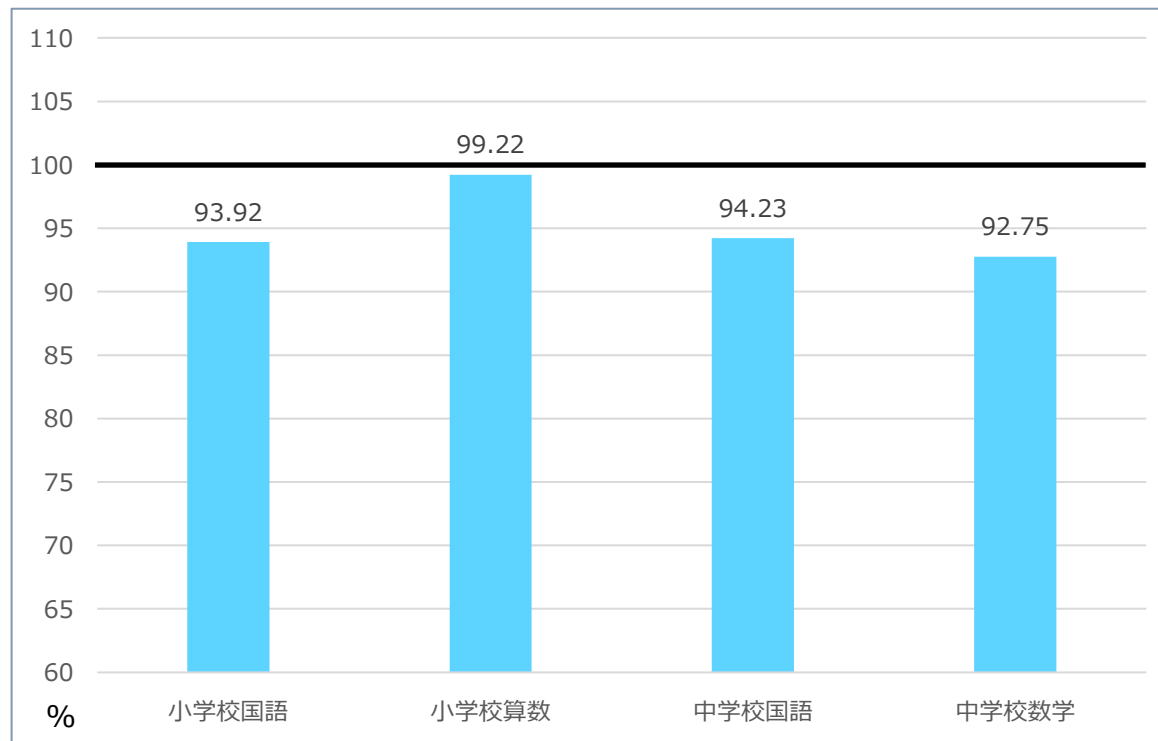


※正答率40%未満の児童生徒の全国の割合を基準（100）とした場合の本市の割合

**学力低位層が、小学校は国語、算数で増加
中学校は国語、英語で減少、数学で増加**

複数の資料を関連付けて考える問題の正答率 (全国学力・学習状況調査)

複数の資料を関連付けて考える問題とは、文章と図や表、会話文とリーフレットの文章など、複数の情報を組み合わせて考え、解答を導き出す問題のこと。

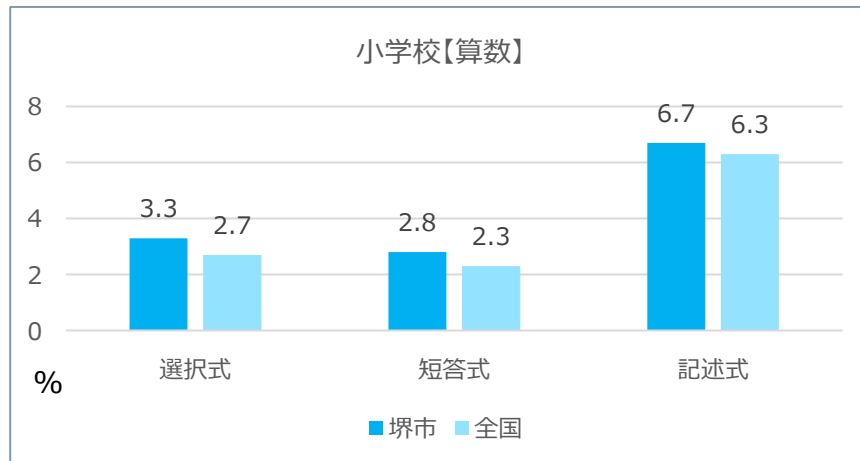
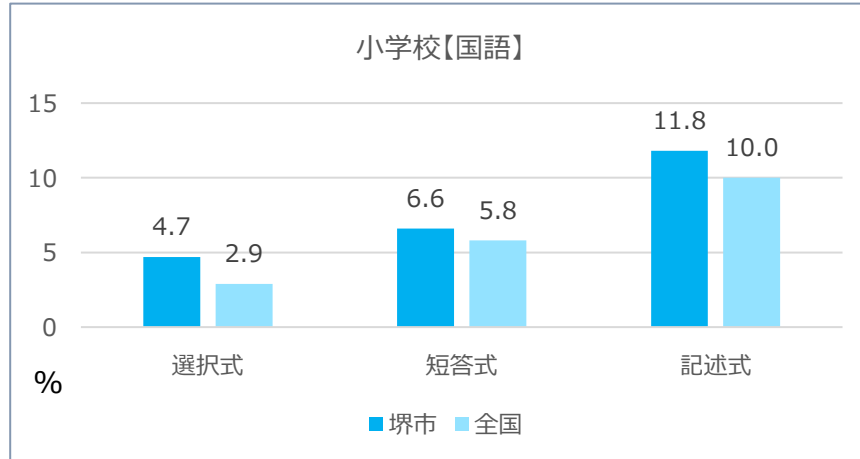


※全国平均正答率を基準（100）とした場合の本市の正答率

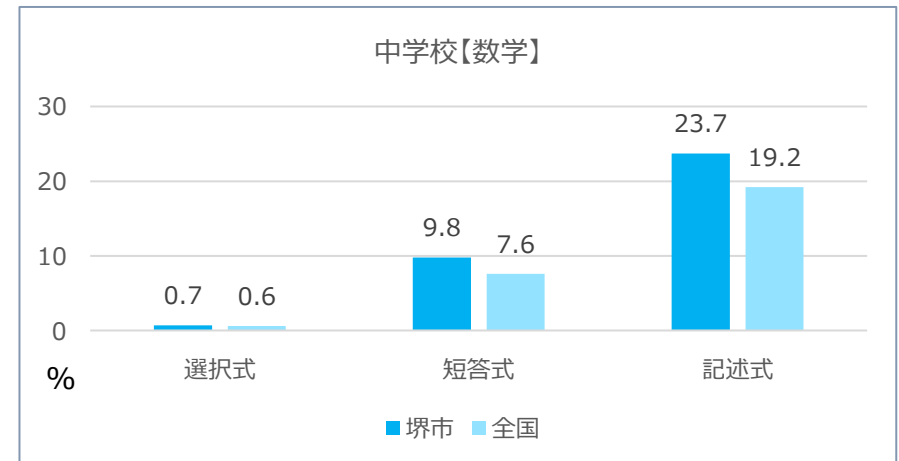
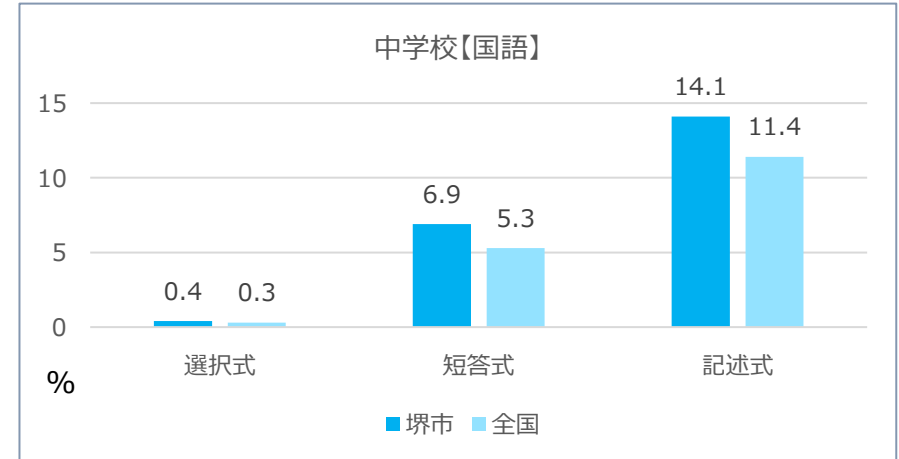
全国平均と比較して平均正答率が低い

問題形式別の無解答率について (全国学力・学習状況調査)

小学校



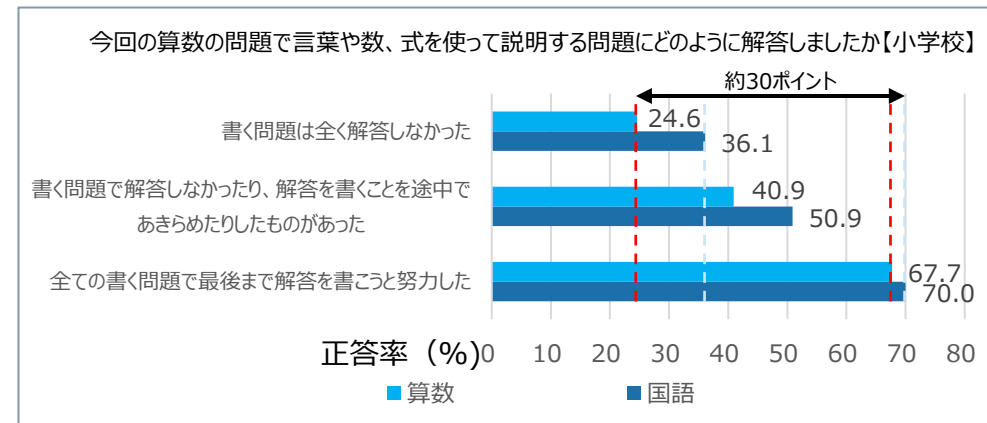
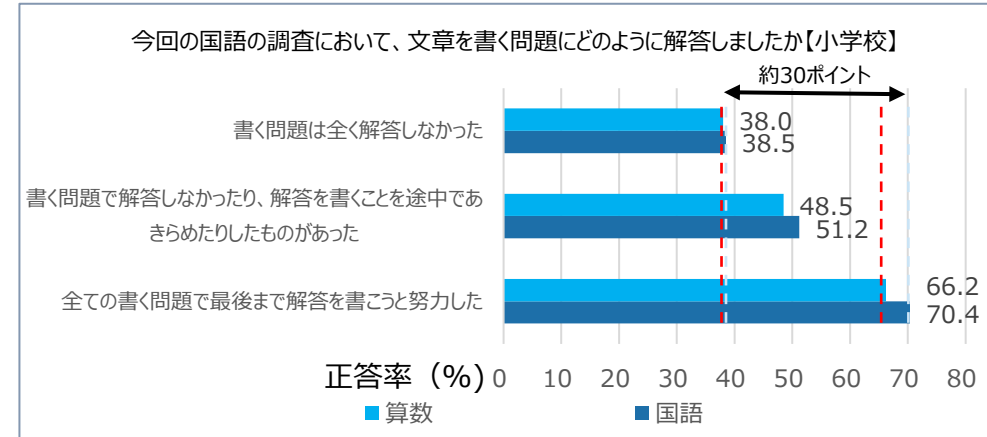
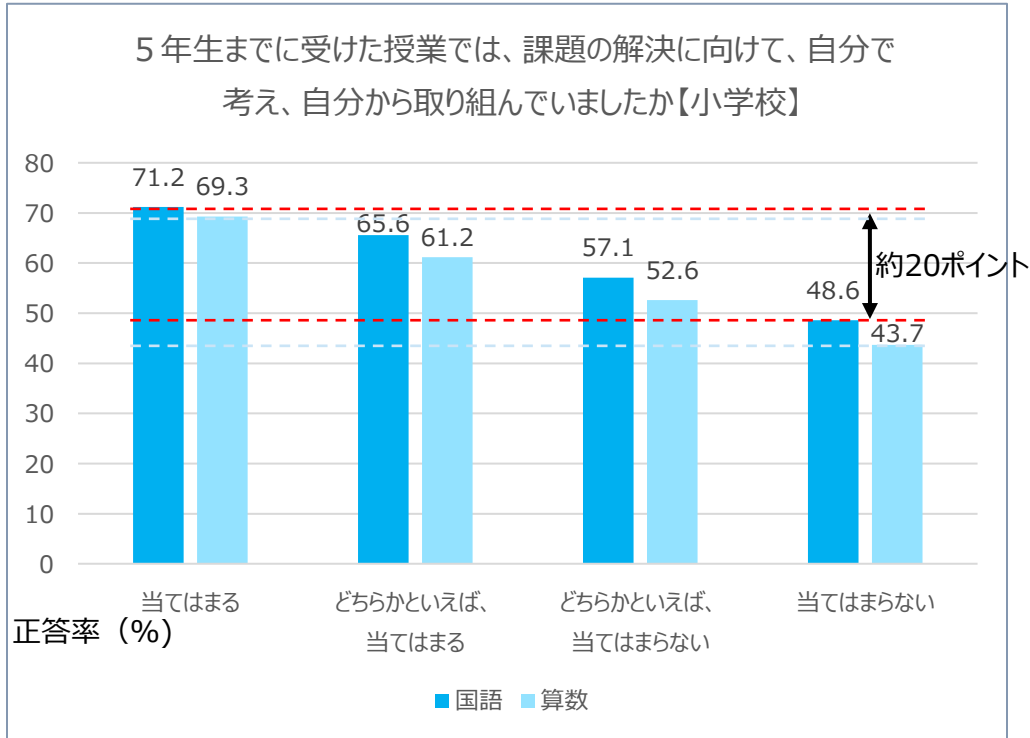
中学校



全国平均と比較して無解答率が高い

質問項目（児童質問紙）と学力の関連について （全国学力・学習状況調査）

（学習意欲に関する回答別 児童の国語、算数の平均正答率）

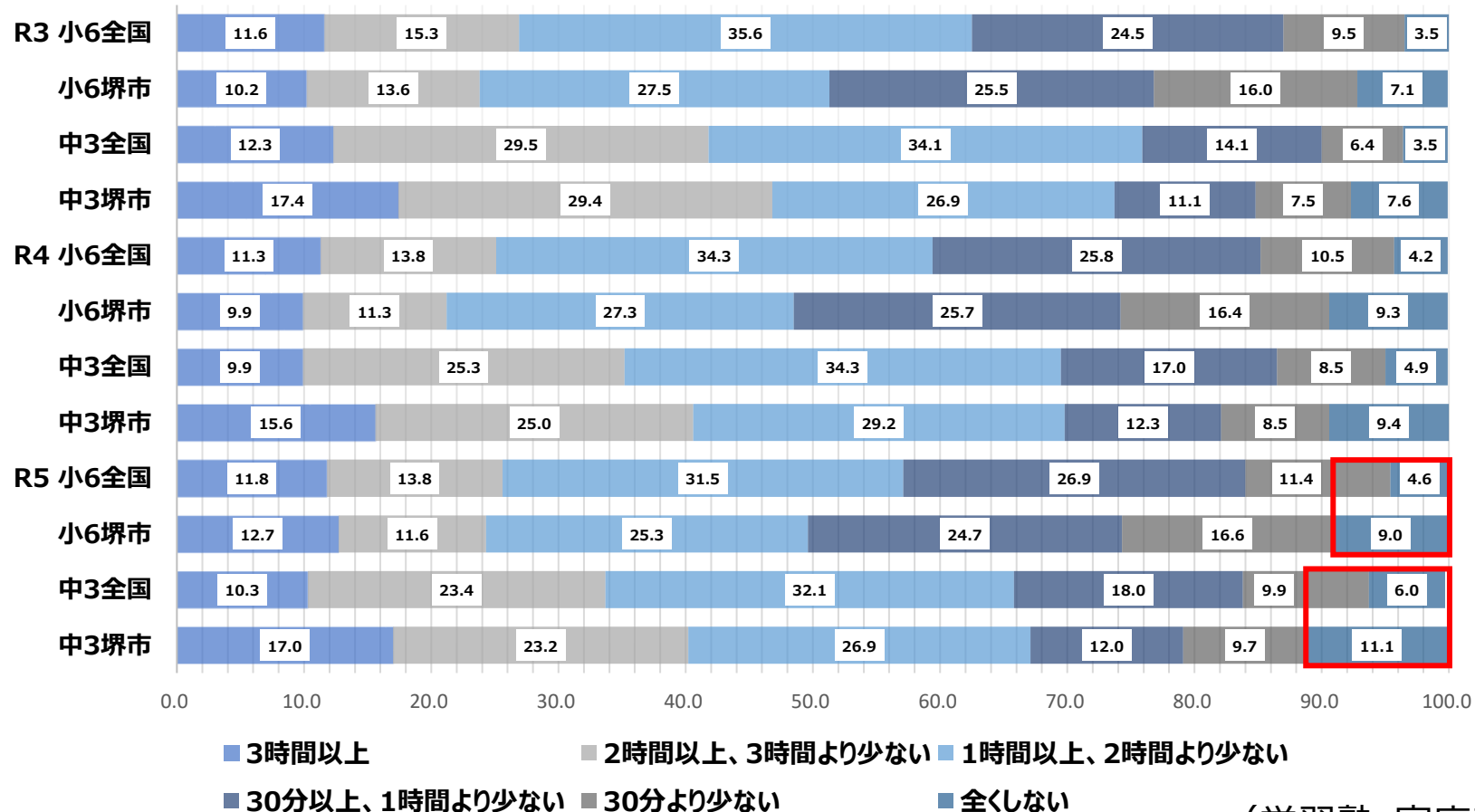


▶「当てはまる」と「当てはまらない」と回答した児童の平均正答率の差は約20ポイント

▶「最後まで努力した」と「全く回答しなかった」と回答した児童の平均正答率の差は約30ポイント

肯定的な回答をした児童の平均正答率が高い

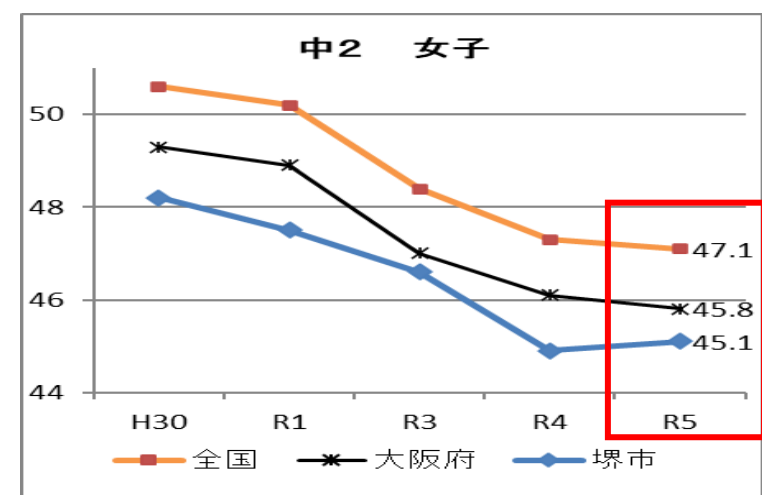
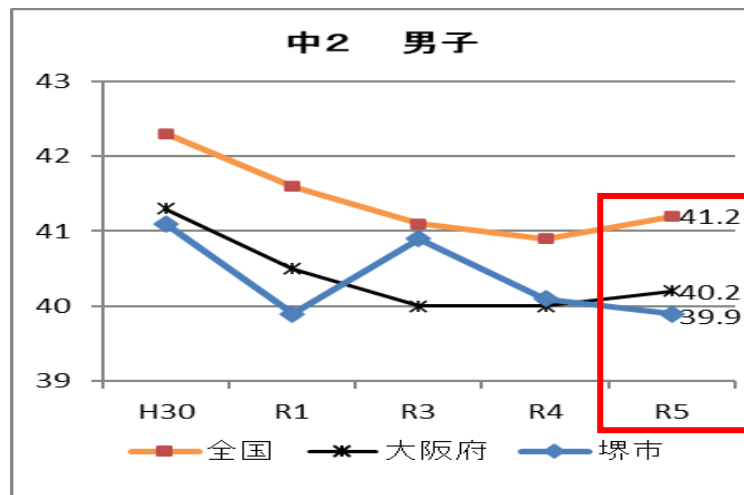
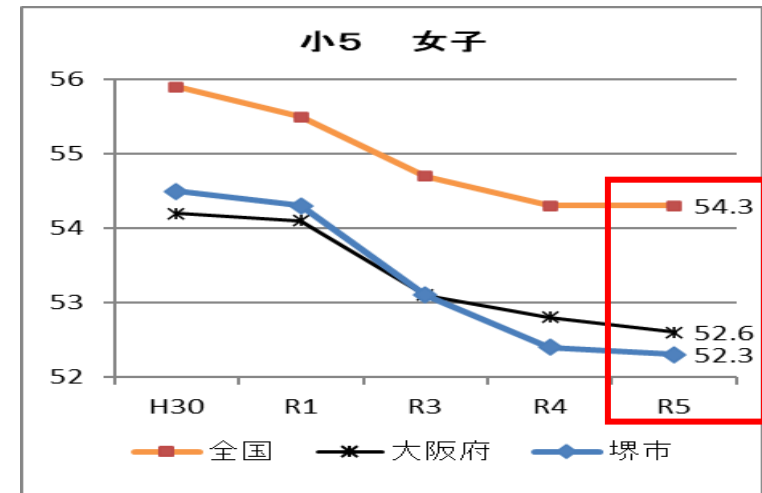
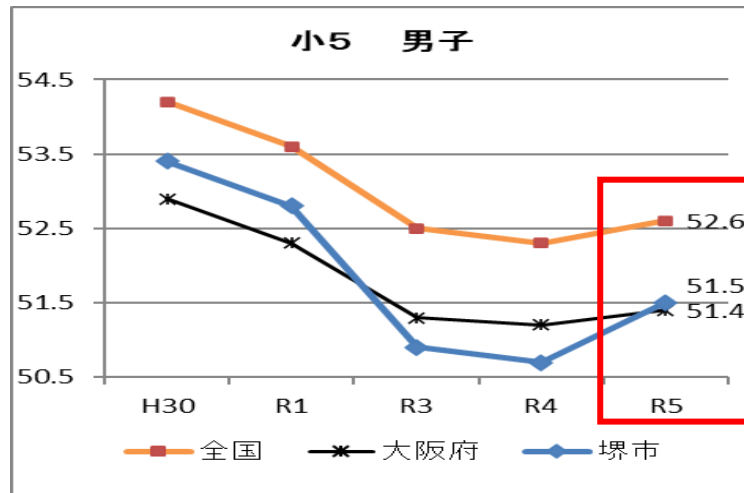
学校の授業時間以外の1日当たり（月～金曜日）の学習時間 （全国学力・学習状況調査）



（学習塾・家庭教師含む）

学校の授業以外で全く勉強しないと回答している児童生徒は全国平均の約2倍

体力・運動能力の堺市の平均値 (全国体力・運動能力、運動習慣等調査)



小学5年男子は大阪府を上回り、全国を下回った
小学5年女子、中学2年男子・女子は大阪府や全国を下回った

各種調査の現状からみえる課題整理

各種調査の現状	考察	対応
・教科学力の正答率が全国より低い。 ・学力低位層の割合が全国より高い。 ・複数の資料を関連付けて考える問題の正答率が全国より低い。 ・小中学校においては、無解答が多い。特に学力低位層の無解答が多い。 ・学校の授業以外で全く勉強しないと回答している児童生徒は全国平均の約2倍 ・全国や大阪府より体力・運動能力が低い学年が多い。	子どもの学習意欲の向上に向けた授業に課題があるのではないか。	「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた授業改善、カリキュラム改善
	子どもの課題解決能力向上に向けた授業に課題があるのではないか。	探究的な学びの充実に向けた授業改善、カリキュラム改善
	子どもが文章を正確に読めず、問題の内容が把握できていないことやその問題を解く意欲の向上に向けた授業に課題があるのではないか。	読解力の向上に向けた授業実践
	子どもの体力・運動能力向上に向けた取組に課題があるのではないか。また、他国の研究等からも体力・運動能力の向上が学習意欲や教科学力の向上にも関連するのではないか。	データの分析や運動能力向上に向けた取組の検討の実施

今後の方向性

- 学力低位層の増加などの課題の解消を図り、子どもに必要となる「**総合的な学力**」を育成するためには、これまでの同一集団・同一内容の学習を前提とした教育だけでなく、子どもたちの多様な状況に応じたパーソナライズした学びを実現する必要がある。
- 個々の子どもの特性、学習進度や学習スタイルに合わせた学習により、子どもが自分に合った学びができていると感じられる「**個別最適な学び**」と、子どもが主体的に、いつ、だれと、何について、どのくらいの時間、他者と学ぶのかを選択することで異なる考え方が組み合わさり、より良い学びを生み出す「**協働的な学び**」の一体的な充実を図る。
- 1人1台パソコン等のICTを最大限活用し、子どもの課題解決能力の向上に向けた「**探究的な学び**」の充実を図る。
- 子どもの特性や学習進度など、個々の子どもにパーソナライズした学びを効果的に行うため、ICTや各種教育データを活用した授業改善とカリキュラム改善を推進する。

総合的な学力の育成に向けて

総合的な学力の育成

学ぶことを楽しみ、自ら学ぶ子ども

個別最適な学び・協働的な学びの
一体的な充実
探究的な学びの充実

授業の改善

何を学ぶか
(学習課題、結論)

どのように学ぶか
(集団、時間、学習材、学習具)

子どもの学び方
(子どもが学び方を自覚)

- ・どのような問いをもっているのか
- ・なぜこれを学んでいるのか
- ・なぜこの学び方が上手いいったのか
- ・どうすればもっと上手いいくのか

1人1台
パソコンの活用

教員の授業改善
(教員の役割)

- ・子ども理解と教科等理解
- ・興味に応じた学習ができる
- ・子ども理解と教科等理解
- ・多様な学び方ができる
- 時間設定
- 環境設定

カリキュラムの改善

9年間を見通した学校群教育目標の設定、連続性・系統性のある学校群小中一貫カリキュラムの編成

めざす姿（令和7年度末の姿）

学ぶことを楽しみ、自ら学ぶ子ども

- ・子ども自身が主体的に課題を見つけ、何を学ぶのか（学びの内容）や、どのように学ぶのか（学びの方法）を選択することができる。
- ・子ども自身が、何を学んで（学びの内容）、何ができるようになったのか（自分の成長）を実感し表現することができる。

■ 設定する指標

指標	現状	令和7年度
「自分で計画を立てて勉強している」と答えた児童生徒の状況スコア （堺市教育委員会調べにおける「当てはまる」「どちらかと言えば、当てはまる」の割合）	小6 59.5 中2 49.6	小6 70 中2 70
学んだ内容について振り返り、「何ができるようになったか（自分の成長）」を実感している児童生徒の割合 （堺市教育委員会調べにおける「当てはまる」「どちらかと言えば、当てはまる」の割合）	—	（※）

（※）・・・令和6年度に現状値の調査を行い、成果指標を設定

■ 設定する指標

指標	現状	令和7年度
IRT調査で小学校4年生から小学校6年生までの2年間に、国語及び算数の学力を12段階中2段階以上伸ばした児童の割合 (堺市教育委員会調べ)	—	(※)
IRT調査で中学校1年生から中学校2年生までの1年間に、国語及び数学の学力を12段階中1段階以上伸ばした生徒の割合 (堺市教育委員会調べ)	—	(※)
学力調査の堺市の学力低位層の割合（全国を100とした場合） (堺市教育委員会調べ)	小6 国語 118.9 算数 107.7 中3 国語 126.9 数学 105.7	小6 国語 100 算数 100 中3 国語 100 数学 100

(※) …令和6年度に現状値の調査を行い、成果指標を設定

取組の体系

■めざす姿を実現するための取組の体系

めざす姿	大分類	中分類
学ぶことを楽しみ、 自ら学ぶ子ども	個別最適な学びと協働的な学び の一体的な充実 探究的な学びの充実	授業改善 “子どもの学び方” “教員の授業改善”
		カリキュラム改善
		データを活用した分析と改善
	学校・家庭・地域の連携・協働 による多様な学びの推進	1人1台PCを活用した家庭学習支援
		地域住民や多様な機関・団体等との 連携・協働による体験学習の充実

重点的に取り組む項目一覧

<重点的に取り組む項目一覧>

重点項目1 授業モデル「探究×ICT」を活用した授業改善

重点項目2 探究的な学びの推進（STEAM※ブックの活用）

※STEAM・・・Science、Technology、Engineering、Arts、Mathematicsの頭文字をとった概念のこと

重点項目3 読解力を育む授業実践（RST※の活用）

※RST…読解力（文書を正確に読む力等）を図るリーディングスキルテストのこと

重点項目4 IRT調査による個々の子どもの状況分析及び支援

重点項目5 集団の状況に着目した分析及び授業改善

重点項目6 教科等横断的な視点でのカリキュラム改善

重点的に取り組む項目を進めるための視点

重点的に取り組む項目を進めるに当たっては、

“子どもの学び方”（子ども自身が何を、どう学ぶか選択する）

“教員の授業改善”（教員が自身の役割を意識した授業の実践）の視点から、取組を実施する。

重点的に取り組む項目

1.授業モデル「探究×ICT」を活用した授業改善

これまでの取組	・「堺版授業スタンダード」を活用した一斉授業における問題解決的な授業の実施 ・教員がICTを活用した一斉授業の推進
教育委員会が 取り組むこと	“子どもの学び方” “教員の授業改善” ・個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を進め、各教科におけるICTを活用した探究的な学びの視点を取り入れた授業モデル「探究×ICT」を作成し、教員の授業改善を支援する。
学 校 園 が 取り組むこと	“子どもの学び方” ・授業モデル「探究×ICT」をもとに、各教科学習の中で、ICTを最大限活用しながら、個々の子どもが学習する際、自分ごととして課題設定を行う探究的な学びの授業を実践する。 “教員の授業改善” ・授業モデル「探究×ICT」をもとに、各教科学習の中で、教員は子どもが自ら進める学びを支え、見守る等の役割を担った授業を行う。
期待される効果	・ICTの活用が進み、子どもの個性や学習進度など、個々の子どもにパーソナライズした学びが効果的に行われる。 ・子どもが自分ごととして課題設定を行い、その課題解決に向けた探究的な考え方が身に付く。

重点的に取り組む項目

2. 探究的な学びの充実（STEAMブックの活用）

これまでの取組	・「堺版授業スタンダード」を活用した一斉授業における問題解決的な授業の実施 ・教員がICTを活用した一斉授業の推進
教育委員会が取り組むこと	“教員の授業改善” ・STEAMブック（探究的な学びの実践事例集）※を作成し、総合的な学習の時間における、子どもが自ら課題を見つけ、情報収集、整理分析、まとめ表現をする探究的な学習を充実させる。 ・全学校で探究的な学びが充実できるよう教員研修等を実施する。
学校園が取り組むこと	“教員の授業改善” ・STEAMブック（探究的な学びの実践事例集）等をもとに、探究的な学びを見直し、改善する。
期待される効果	・子どもが自分ごととして課題設定を行い、その課題解決に向けた探究的な考え方が身に付く。

※STEAMブック（探究的な学びの実践事例集）とは、探究的な学びを進めるため、「STEAM」をはじめとして教科等横断的な視点で授業を行うために活用できる事例集のこと。
「STEAM」：S…Science T…Technology E…Engineering A…Arts M…Mathematics

重点的に取り組む項目

3.読解力を育む授業実践（RSTの活用）

これまでの取組	・モデル校 3 校で、子どもの読解力を測る調査(RST) を実施及び分析 ・子どもの読解力が向上した授業の分析
教育委員会が 取り組むこと	“子どもの学び方” “教員の授業改善” ・RSTの結果をもとに、読解力が向上する授業実践例や読解力が伸びた子どもの学習取組事例集を作成し、教員の授業改善を支援する。
学 校 園 が 取り組むこと	“教員の授業改善” ・授業実践例をもとに、読解力が向上する授業を実施する。 “子どもの学び方” ・子どもの学習取組事例集をもとに、読解力の伸びた子どもの学習取組を参考にして学習を進めるよう支援する。
期待される効果	・国語以外の教科においても、読解力を育む授業を実践する。 ・子どもの読解力の向上により、授業内容や問題文の理解（知識・技能）が進み、自ら学ぶ意欲（学びに向かう力）が向上する。

重点的に取り組む項目

4.IRT調査による個々の子どもの状況分析及び支援

これまでの取組	・教員による日々の見取りによる子どもの学力状況の把握
教育委員会が 取り組むこと	“教員の授業改善” “子どもの学び方” ・IRT調査を活用した個々の子どもの学力の伸びの経年把握や分析にもとづく教員の授業改善を支援する。
学 校 園 が 取り組むこと	“教員の授業改善” ・子どもが自分に合った学習方法を見直し、選べるようにするため、学力が伸びている子どもの学び方や学校の取組を集約・発信する。 ・IRT調査を活用し、個々の子どもの学力の伸びの経年把握や分析を行い、個に応じた机間指導やICT学習支援コンテンツによる指導を実施する。 “子どもの学び方” ・日々の単元テスト、定期テストに加えて、ICT学習支援コンテンツの学習履歴を活用し、苦手単元やつまづいた箇所、基礎的な学習内容の学び直しを実施する。
期待される効果	・子どもの学力、つまづきの箇所、学力の伸びを経年で把握し、個々の子どもにパーソナライズした学びが実現する。

5.集団の状況に着目した分析及び授業改善

これまでの取組	・正答率が低い問題及び正答率の差が大きい問題に焦点を当てた分析 ・分析に基づき、学年ごとのつまずきのポイントやその解消をまとめた「分析のしおり」を活用した小中9年間を見通した系統的な授業の実施 ・運動能力の向上に向け、体力向上研究校（中学校1校、小学校4校）を指定し、各校における取組を進め、成果と課題について冊子にまとめ全小中学校に配布
教育委員会が取り組むこと	“教員の授業改善” ・系統的な授業の事例を蓄積する。 ・「分析のしおり」の作成及び学校への周知を行う。 ・地域の大学等と連携し、全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果等を用い、本市の運動能力の状況等を把握、分析する。
学校園が取り組むこと	“教員の授業改善” ・「分析のしおり」を活用し、低位層の子どものつまずきや系統的な指導を意識した授業を行う。 ・体力向上研究校の取組の成果と課題をもとに、運動能力の向上に向けた取組を行う。
期待される効果	・小中9年間を見通した系統的な授業が実施される。 ・データ等に基づいた、体力・運動能力の向上に向けた施策を検討する。

重点的に取り組む項目

6.教科等横断的な視点でのカリキュラム改善

これまでの取組	・全教職員の参画による「カリキュラムマネジメント」の充実 ・ICTを活かしたデータにもとづくカリキュラムの改善
教育委員会が 取り組むこと	“教員の授業改善” ・STEAMブック（探究的な学びの実践事例集）の作成などにより、総合的な学習の時間をはじめ教科等横断的な視点で、学校群・学校教育目標の達成に必要な教育の内容を定めるカリキュラム作成を支援する。 ・カリキュラムマネジメントの充実に向けて、研修等の機会をとらえ、具体的なカリキュラムマネジメントの進め方や好事例を学校園に周知する。
学 校 園 が 取り組むこと	“子どもの学び方” “教員の授業改善” ・子どもたちの姿をふまえて、カリキュラムの実施、評価、改善を行い、PDCAサイクルを確立する。 ・「いつ、どの教科等で、どのくらいの時間、どんな学習形態で」授業を行うのか等教科横断的な視点を含めて示したカリキュラムの作成に向けた検討を進める。
期待される効果	・学校でカリキュラムマネジメントが確立することにより、教科等横断的な学びが進む。

個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実 探究的な学びの充実

授業改善 “子どもの学び方” “教員の授業改善”

1 子どもの学び方への支援

- ICT学習支援コンテンツの充実及び活用
- 個人の状況に着目した分析及び授業改善（IRT）【重点的に取り組む項目4】
- 重点的に指導する児童生徒・指導計画の策定
- ICT学習支援コンテンツを活用した苦手単元や下学年の内容の学び直し支援
- 授業モデル「探究×ICT」の活用【重点的に取り組む項目1】 など

2 教員の授業改善

- 探究的な学びの推進（STEAMブックの活用）【重点的に取り組む項目2】
- 集団の状況に着目した分析及び授業改善【重点的に取り組む項目5】
- 読解力を育む授業実践（RSTの結果活用）【重点的に取り組む項目3】
- 英語教育の推進
- ICT活用インフルエンサーによるICT活用支援
- 授業モデル「探究×ICT」の活用【重点的に取り組む項目1】の活用 など

カリキュラム改善

1 小中9年間を見通したカリキュラム改善

- 義務教育9年間を見通しためざす子ども像（「小中一貫グランドデザイン」（全体構想））の作成
- IRT調査やICT学習支援コンテンツの活用によるつまずきに着目したカリキュラム改善
- 全教職員の参画によるカリキュラムマネジメント
- 具体的なカリキュラムマネジメントの進め方や好事例の発信・共有
- カリキュラムの実施、評価、改善を行い、PDCAサイクルを確立 など

2 教科横断的な視点でのカリキュラム改善【重点的に取り組む項目6】

- STEAMブック（探究的な学びの実践事例集）等を活用した教科横断的なカリキュラム作成の支援
- 具体的なカリキュラムマネジメントの進め方や好事例の発信・共有
- カリキュラムの実施、評価、改善を行い、PDCAサイクルを確立 など

個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実 探究的な学びの充実

データを活用した分析と改善

1 教科学力調査

- 個々の子どもを焦点とした学習内容の分析と学び直し、学び方支援
- 学級など集団を焦点とした学習内容の分析と授業改善、カリキュラム改善 など

2 質問調査

- 個々の子どもを焦点とした学び方等の分析と学び方の振り返り
- 学級など集団を焦点とした学び方等の分析と学び方の共有 など

3 各種調査の分析結果や取組の可視化・共有化

- 教科調査や質問調査、体力・運動能力調査等のデータ分析等
- 教育ダッシュボードの活用 など

学校・家庭・地域の連携・協働による多様な学びの推進

1 1人1台PCを活用した家庭学習支援

- 子どもの興味や個性に応じて活用できる各種学習支援コンテンツの充実
- 子ども自身が何を、どう学ぶか選択する授業と関連した家庭学習の推進（学習支援コンテンツも活用） など

2 地域住民や多様な機関・団体等との連携・協働による体験学習の充実

- 部活動の地域連携・地域移行の推進
- 地域の大学等と連携した体力向上施策等の検討
- 堺市の芸術家を学校に派遣する「さかいミーツアート事業」の活用
- 企業等による学びの応援プログラムの活用
- 子ども堺学やキャリア教育などでの地域人材等の活用 など